

第3回室蘭工大教育ワークショップ

「第3回室蘭工大教育ワークショップ」が9月28、29日に洞爺湖温泉にて実施され、「学生をひきつける授業をつくる」をテーマにベテラン教員から新任教員まで21名、小幡教育担当副学長、TF（タスクフォース）8名、教務課職員3名が参加しました。

【青空の中スタート】

本学本部事務棟前に午前8時30分に集合。参加メンバーで一致協力して器材をバスに搬入し乗車。会場までのバスの中では、WSの開催宣言に続き、全体の注意事項の説明、自己紹介などが行われました。

会場に到着後、午前10時30分からFDWG副委員長から「WSの進め方」に関するミニ講義を受け、各自指定された4つの班に分かれた後、アイスブレイキングが始まりました。これは20分という決められた時間内に、班の名称を決め、ロゴマークをデザインします。短時間での共同作業を通じ、異なる学科の壁を越え、教員同士自由に活発な意見交換が行うための導入と位置付けられます。



各班とも非常にユニークな班名とロゴマークを考案しました。メンバーのうち3名が関西出身というJAM班が、アイスブレイク賞に輝きました。羊蹄山と洞爺湖にメンバー全員の個性が一体となったデザインが評価されました。

午前11時40分からの小幡教育担当副学長の講演「室蘭工業大学の教育の現状と課題」では、受験生が減少する中での入学希望者の増加に向けた対策、入学後の基礎教育（基礎数学・基礎理科）の実施、多様な副専門コースの設定など、これからの本学にとって重要な課題について話され、続いて参加者との活発な議論が行われました。



【1日目 WS 1, 2】

「工大生について語ろう～現代学生気質～」をテーマとしたWS 1では、日ごろ授業で接している工大生について意見が交わされました。受身的である、目的意識が低いなど短所があげられましたが、言われたことはキッチリこなす純粋さ、素朴さ、ポテンシャルを秘めた期待感などの長所も多く述べられました。



WS 2の「学生をひきつける授業とは？」では、想定した授業状況（集中力が欠け、居眠り、私語が見られる）に対する対策を問うものでした。このような状況を経験している教員は、残念ながら少なくないようでした。各教員から、小テストの実施、穴埋めプリントなどの配布教材の工夫、座席マップの利用、授業進行方法などが提案されました。



WS 2の全体討論が終わったのは午後6時を過ぎ、参加者にも多少疲れが見られました。午後8時からの「ブレアンケートに答える」では、事前に本WS参加者に対して実施したアンケートに基づいて、意見交換が行われました。午後9時半過ぎに第1日目が終了。部屋では、参加者による授業談義が続いたようです。

【2日目～模擬講義～】

翌日も秋晴れ。本WSの最終段階であるWS 3「シラバスの作成」が午前9時から始まりました。室蘭工大の現状と要望を踏まえ、学習目標・ねらいを設定し、シラバスを組み立て、模擬講義を行うものです。4つの班は、それぞれ「テクノロジーの明暗」、「日常に潜むサイエンス」、「人間鍛錬学」、「人間とロボット」という講義を企画し、1日目のWSの成果を生かした魅力ある模擬講義を行いました。WS全体を通して最優秀な班に贈られる「WSグランプリ」は、チームインパクト班が受賞しましたが、賞をのがしたCs班、Explorers班におしむ声もでました。



【お疲れ様でした】

最後に副学長およびFDWG委員長から総評、修了証書授与、記念撮影が行われ、今年度の室蘭工大教育ワークショップは幕を閉じました。終了後の参加者アンケートでは、7割の参加者が「とても役に立った」あるいは「まあ有意義だった」と回答、残り3割は「普通だった」と回答して頂きました。また、他の教員との交流と議論が有意義だった、という声が多く寄せられました。

参加教員（敬称略、WSスタッフを除く）

植杉 克弘、須藤 秀紹、戎 修二、世利 修美、大鎌 広、刀川 眞、太田 光浩
田邊 博義、沖井 廣宣、張 榕喆、川村 志麻、寺本 孝司、黒澤 和隆、二宮公太郎
酒井 彰、花島 直彦、澤口 直哉、平井 伸治、清水 一道、藤本 敏行、菅田 紀之